

## シラヒゲウニの資源管理について

近藤 忍

### 活動課題選定の動機

今帰仁漁業においては、乱獲によるウニ資源の減少及び魚価の暴落に対する危機感からウニ部会を結成し、ウニの資源管理型漁業に取り組んでいる。

県下におけるウニ資源は乱獲により、著しく資源量が減少し、現在組織的なウニの漁労活動が成立している地域は、八重山漁協漁業権域と今帰仁漁協の古宇利島周辺海域に限られている。

注目すべきは、上記2地域におけるウニ漁業は地域漁業者により自主的に禁漁期が設定され厳しく守られている。

特に今帰仁漁協においては、禁漁期のみならず、出荷調整による魚価調整に積極的に取り組み、ウニ漁業者の収入の安定に大きく貢献している。

当課題では、今帰仁漁協のウニ資源管理型漁業活動内容を把握し、その効果や問題点等分析し、もって、県ドウニ漁業の再興に資することを目的とする。

### 今帰仁漁協ウニ部会の活動状況

1. ウニの出荷調整、資源の保護を目的とした部会の設立
2. 出荷調整および資源管理を目的とした部会の取り決め事項
  - 漁期の設定
  - A. B2班による隔日出荷と1日当たりの出荷量の設定
  - 漁期終了後のウニの移植作業

### 活動成果及び今後の活動計画

今帰仁漁協ウニ部会の活動により以下のような成果が出た。

#### 1. 魚価の安定

平成元年に6,000円/kgであった魚価は平成10年には、16,000円/kgとなった。

#### 2. 操業日数の減少によるゆとりある漁労活動

隔日出荷等の出荷調整により操業日数は以前の半分以下となった。

#### 3. ウニ資源の保護

漁期終了後数万個のウニをホンダワラ藻場へ移植し来期移行のウニ資源の再生産を促進させる。

#### 4. 漁場環境の保全

特にウニの好漁場となるホンダワラ藻場について藻場造成試験を行なった。